

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：日高高等学校定時制課程 校長名：山本 直樹

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

社会生活を営む上で必要な基本的な生活習慣、基礎的な学力の定着を図り、社会に貢献できる自立した人材を育成する。

学校評価の公表方法

ホームページを活用し広く公表していく

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	授業を通して、社会生活で必要となる基礎的な知識や技能を身につける。	不登校の経験や軽度の発達障害等により、義務教育レベルの基礎的な学力を定着させることができなかった生徒が多い。	個々の学習状況等を観察し、生徒の学ぶ意欲を引き出すための働きかけを工夫する。	定期的な授業見学及び生徒へのアンケートの実施。	B	生徒への挨拶指導、欠席・早退時の家庭連絡を徹底した。	就労と学校生活を充実させ、規則正しい生活を送らせる。相互の理解に努める。家庭との連携や個人面談・三者面談の実施と、必要に応じて外部機関との連携を図り、休・退学者を出さない指導を目指す。
			基礎学力の定着を目指し、学力低下による休退学の減少に向けた夏期学習セミナー等の学習補充の実施。	各教科横断的な取り組みが行われるように共通認識を図られているか。	A	スクールカウンセラーと生徒との面談を各学期で全員に実施した。	
			家庭との連携を密にし、学習状況や成績の情報共有を図ると共に、家庭の協力を得る。	学習状況等を教員間で情報共有されているか。	A	生徒の情報交換を密にし、欠席が続かないように、担任の保護者連絡のサポートを行った。	
2	特別活動や学校行事などを通して、社会生活を送るために必要な協調性や社会性、仲間意識を身につける。	高校入学までに不登校を経験し、生活のリズムが崩れ基本的な生活習慣が身につけていない生徒が多い。	登校時などにおける挨拶の励行、欠席等の連絡の徹底。	登校時に教員から積極的に声かけをし、生徒は、挨拶や時間を守ることを徹底できたか。家庭への連絡を密にして連携して行うことができたか。	B	授業アンケートの実施と振り返り、情報共有を行った。	授業アンケートを1・2学期中間考査後に2回実施し、授業改善を行う。また、夏季冬季学習セミナーを恒例化し、生徒の積極的参加を促していく。進路・資格に向けて基礎学力定着につなげる。
			不登校生徒減少への支援体制の充実。支援体制について教職員への現職教育を行う。	スクールカウンセラー等の教育相談活動を充実し、一定の改善がみられたかを定期的に行い、指導・支援の見直しをおこなう。	A	習熟度別授業、学習セミナーを実施することで、個別指導ができた。	
			休・退学の減少に向けた家庭との連携や個人面談・三者面談の実施と、必要に応じて外部機関との連携を図る。	生徒・保護者と十分な面談を行い、共通認識を得て指導できたか。	A	各学期の成績について生徒・家庭への連絡を密にし、理解を得た。	
3	自他の生命や人権を大切にし、相手を思いやる気持ちを持って、良好な人間関係を築くことができる。	他者の生命を守るための技能を養う必要がある。いじめや様々な差別の問題に対する意識が低く、無意識に問題行動をとってしまう生徒もいる。	交通安全教室の実施。	交通安全テスト・およびアンケートにより生徒の意識が高められたか。	B	交通安全教室を実施した。	防災については、当事者意識を持たせ、体験を重視した訓練につなげることが必要。人権LHRについては、ヤングケアラーやSNS関連など現状にあったテーマを選んで、自己判断力の育成を目指す。
			災害教室の実施。	災害発生時の安全確保と、高校生としての責任ある行動が意識できるようになったか。	A	地震・火災・津波防災教室、避難訓練を実施した。	
			人権LHRでの人権講話や社会人として必要な人権意識の定着。	さまざまな人権問題を意識することができたか。また、問題解決の手段を自ら考え表現することができるようになったか。	A	いじめアンケートと人権LHRを実施した。映像資料を活用し人権意識の醸成に努めた。	
4	お互いの考えを理解・尊重し合い、積極的に社会生活に参加できるコミュニケーション力を身につける。	卒業年度においても進路意識が低く、自分のしたいことがわからない状態の生徒が多い。	進路LHRや就職・進学ガイダンス等の充実。	外部講師による講話/講演は効果的であったか。	B	講演により、生徒の興味関心が高まった。	進路への意識が低い生徒が多く知識も少ないため、1年生から就職ガイダンス・工場見学や高等教育機関の仕組みの講演等を通じて、早期にキャリアの意識を持たせる。
			企業研究や面接指導の充実。	応募前職場見学を実施できたか。	A	積極的に参加できた。	
			新規求人企業の開拓及び関係機関との連携。	地元企業訪問の実施と関係機関との連携ができていくか。	A	新規企業の開拓はできなかったが、希望職種への就業ができた。	

学校関係者評価

○中学校では不登校だった生徒が自分で登校できるようになっている。なんとか定時制だったら行ける生徒たちにとって、学校生活や集団生活への希望が持てる学習の場となっている。

○少人数のクラスを、さらに習熟度に分けることで、子供たちのわかったという達成感が持てる学習に取り組んでくれていることも大きい。

○様々な家庭環境の家庭が増えている現状からも、地域に無くてはならない学びの場である。定時制の必要性がさらに高まってきている。

○積極的な生徒会活動に取り組むことで、自ら考えて行動し、対人関係等の社会性も育ってきている。

○毎日の出迎えや、見送り、定期的なスクールカウンセラーの面談など、生徒1人1人を温かく見守ってくれている。

○個別の補習や、質問対応、就職指導など先生方がとても熱心です。生徒達が学びやすい環境を作ってくれていると思います。

○企業との連携や講演などできることは協力させていただきます。

外部による学校評価はおおむね良好であった。